

洗礼を受けたユースのために

信仰生活 Christian Life



☆目次

Lesson 1	救いの確信	1
Lesson 2	聖霊による信仰の成長	4
Lesson 3	愛すること・赦すこと	7
Lesson 4	交わり	10
Lesson 5	教会	13
Lesson 6	礼拝	16
Lesson 7	聖餐式	19
Lesson 8	聖書を読むこと・祈ること	22
Lesson 9	奉仕・賜物	25
Lesson 10	献金とお金の使い方	28
Lesson 11	伝道	31
Lesson 12	賛美	34



Lesson 1 すく かくしん 救いの確信



あなたはイエス様を自分の罪からの救い主として信じて救われましたか？ どうしてあなたは救われていると言えますか？ このレッスンでは、イエス様の救いをしっかりと確信するにはどうしたらいいかについて考えてみましょう。



1. イエス様の救いの復習

あなたの救いについて、エペソ人への手紙2章1～9節を聞いて復習してみましょう。

(1) イエス様を信じる前の私たち(エペソ 2:1～3)

- ・罪の中に死んでいました (2:1)。
- ・神様を信じないこの世の流れに従い、悪魔に従って歩んでいました (2:2)。
- ・生まれながら神様の怒りを受けるべき者でした (2:3)。

(2) イエス様の救いとは？(エペソ 2:4～6)

- ・父なる神様は、罪の奴隷として生きていた私たちを愛してくださいました (2:4)。
- ・罪の中に死んでいた私たちのためにイエス様の十字架の救いを与えてくださいました (2:5)。
- ・イエス様の十字架によって、私たちの過去・現在・未来のすべての罪を赦してくださいました。
- ・イエス様によって私たちを新しく生まれ変わらせてくださいました (2:6)。
- ・神の子どもとして、イエス様とともに天の王座に着くものとしてくださいました (2:6)。

(3) どのように救われたの？(エペソ 2:8～9)

「恵み」とは、本当はもらう資格がない人に、特別に大切なものをプレゼントとしてあげることです。神様は、本当は罪のために救われる資格がない私たちのために、イエス様の救いを用意してくださいました。そして、私たちがイエス様の救いを「信じます」という信仰だけで、私たちを罪から救い出してくださいました。私たちが救われたのは、私たちの努力や行いによるのではなく(2:9)、すべて神様の恵みです(2:8)。さらに、イエス様を信じますという信仰自体も、私たちから出たものではなくて、神様が私たちの心に与えてくださったものです(2:8)。

2. どうやって救いを確信できるの？

中高生からよくこんな相談を受けます。「バイブルキャンプの時には、あんなにイエス様を信じて喜んでいたのに、家に帰ったら喜びがなくなっちゃった。自分はイエス様を信じて本当に救われているのかなあ。」あなたはどのように思いますか？

私たちの気分(感情)は毎日変わりますね。そんな私たちの気分で判断していたら、救われていると思う日と救われていないと思う日がしょっちゅう入れ替わってしまいます。ではどうやって、イエス様の

救いを確信することができるでしょうか？それには3つのことがあります。

(1) 聖書の約束のみことばによって

私たちがイエス様によって救われたことをはっきりと知ることができるのは、いつまでも変わることはない聖書の約束のみことばによってです。

「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」(Iペテロ 1:23)

聖書には、イエス様の救いの約束のみことばがたくさんあります。その中のいくつかの聖書箇所をここにあげておきました。もし、決まっていなかったら自分で聖書を開いて、その中からひとつを自分の救いの確信の約束のみことばとしましょう。

- ・ヨハネの福音書 1:12
- ・ヨハネの福音書 3:16
- ・コリント人への手紙第二 5:17
- ・エペソ人への手紙 2:8

(2) 聖霊なる神様の助けによって

「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません。」(Iコリント 12:3後半)
「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」(Iコリント 6:19)

聖書は、私たちがイエス様を救い主、主と信じたことができたのは、聖霊なる神様のお働きによるのだと教えています。さらに聖霊なる神様は、イエス様を救い主として信じた私たちのうちに住んでくださっています。聖霊なる神様は、私たちが聖書を読むこと、祈ること、教会生活を守ることなど、私たちがイエス様を信じた者として成長することを助けてくださいます。私たちのクリスチャンとしての生活は、自分の力や努力でがんばるものではありません。聖霊なる神様が私たちに責任を持って育ててくださいます。

※このことは、Lesson2「聖霊による信仰の成長」でくわしく学びます。

(3) クリスチャンとしての経験によって

「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(IIコリント 5:17)

イエス様を信じて罪から救われた私たちには、新しいいのち—永遠のいのち—が与えられました。イエス様を信じた時から、そのいのちは私たちの中で働き始めています。その新しいいのちによって、私たちの神様に喜ばれない罪の性質が変えられて、神様に喜ばれる生活をすることができるようになっていきます。

私たちがクリスチャンとして神様に頼って生きていくときに、私たちはこの新しいいのちの力を経験するようになります。聖書のことばによって励まされたり、力づけられたり、お祈りが神様に聞か

れたという体験をしたりと、イエス様を信じるまでは知らなかった神様のいのちの力に触れるようになります。私たちはそのような経験によっても、自分がイエス様を信じて神の子どもにされたことを知ることができます。

まとめ

私たちはイエス様を救い主として信じる信仰によって救われました。それは神様からのプレゼントです。変わる事のない神様の救いの約束のみことば、私たちのうちに住み、私たちに助けてくださる聖霊なる神様、神様が私たちの人生に働いてくださることを経験することによって、私たちは自分の救いを確信することができます。

☆聖句

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」(エペソ 2:8)



かんが 考えてみよう

1. あなたの救いの確信のみことばを書き出してみよう。

☆私の救いの確信のみことばは、
章 節です。

2. あなたはこの救いの約束のみことばによって、確かに救われていると信じますか？

はい よくわかりません

※もしよくわからないと思ったら、もう一度教会の先生と救いについて学び、確信が与えられるように神様にお祈りしましょう。



Lesson 2 せいれい しんこう せいちょう 聖霊による信仰の成長



「オギャア」と生まれた赤ちゃんは、そのいのちの力によって、だんだん大きく成長していきます。それと同じように、あなたはイエスを救い主として信じて、聖霊によって新しいいのちをいただきました。私たちは聖霊の助けによってクリスチャンとして成長していくことができます。



1. クリスチャン生活の頼もしい助け - 聖霊 -

私たちがクリスチャンとして成長するために、私たちにはとても頼もしい助け手がついています。その方は、Lesson1 で触れたように、私たちがイエスを救い主として信じた時から、私たちのうちに住んでくださっている聖霊です（I コリント 6:19～20）。イエス様はこのお方のことを「もうひとりの助け主」と紹介されました。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」（ヨハネ 14:16）。

聖霊はイエス様の代わりに私たちのうちに住んでくださり、いつも私たちを力づけ、励まして、私たちを神様に従う者に育ててくださいます。クリスチャン生活は自分でがんばってするものではありません。聖霊に助けをいただいで、聖霊といっしょに歩む二人三脚の生活なのです。だから肩の力を抜いてイエス様の救いの道を安心して歩いて行きましょう。

2. 聖霊の助けはどんなもの？

では、聖霊は私たちの信仰の成長をどのように助けてくださるのでしょうか。

(1) 私たちを神の子どもにふさわしい者に変えてくださる

私たちには、イエス様を信じた瞬間に聖霊によって新しいいのちが与えられました。そして、神の子どもになりました。でも罪の奴隷だったときの私たちの性質や習慣は、まだまだたくさん私たちのなかに残っています。神様の敵であるサタンは私たちの罪の性質に働きかけて、神様に従いたくない思いを持たせようとします。そして罪の生活を続けさせ、神様のいのちにあふれる生活を味わえないようにじゃまをします。

聖霊はそのようなサタンの攻撃から私たちを守ってくださいます。聖霊は私たちのうちに活動を始めた新しい人の性質を励まして、「神に従いたい」、「罪の生活からきよめられたい」、「神のみこころを行いたい」という思いを起こしてくださいます。

その聖霊の助けを受けるために大切なことはどんなことでしょうか。

① 毎日の悔い改め

聖霊は、聖書のことばを通して私たちに、神様に喜ばれない罪を教えてください。きっとあな

たも神様に喜ばれないことを言ってしまった、やってしまったと分かる時があると思います。その時に、私たちはどうしたらいいと思いますか？大切なことは、そのことをいつまでも放っておかないことです。お祈りの中で、聖霊が気づかせてくださった罪を具体的に言い表して、イエス様の十字架による罪の赦しを信じることです。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」(Iヨハネ1:9)

私たちは同じことを何度も失敗して、何度も同じことを赦してくださいと祈らなければならないことがあるかもしれません。

② 聖霊の助けを祈る

聖書は、「私は言います。御霊(みたま)によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」(ガラテヤ5:16)と教えています。だから私たちが聖霊の助けを祈りましょう。

私たちが聖霊の助けを求める祈りをするときに、聖霊はいつも私たちをきよめて、私たちが自分の力で解決できない罪や悪習慣の問題を解決してくださいます。

(2) キリストの証人として育ててくださる

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります」(使徒1:8)。

聖霊なる神様は、私たちをイエス様の救いを伝えるキリストの証人として育ててくださいます。私たちの口を通して、また生き方を通して、イエス様を信じる人たちを起こしてくださいます。

※Lesson11で伝道についてくわしく学びます。

(3) 私たちを天の御国を受け継ぐ者としてくださる

「この方であってあなたがたもまた、真理のことは、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じることにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖(あがな)いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです」(エペソ1:13~14)。

聖霊は、「きみはなかなかクリスチャンとして成長しないなあ」などと言って、私たちのことを途中で投げ出されることは決してありません。責任を持って私たちを天国にまで導いてくださいます。私たちはそこで、私たちに朽ちることも消えることもない天の御国の資産を、イエス様とともに相続することができます。また病気に悩まされたり、死んだりすることのない栄光の体が与えられます。そして神様とともに、またイエス様を信じた仲間とともに永遠に天国での生活を楽しむことができます。

まとめ

私たちのクリスチャンとしての日常生活には、このように私たちの救いの家庭教師であり、トレーナーである聖霊のいたれりつくせりのお世話があるのです。だから、私たちは聖霊の助けを信じて、安心してクリスチャンとして成長していきましょう。

☆聖句

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」(ガラテヤ5:16)



かんが 考えてみよう

1. イエス様を信じ、洗礼を受けてから、あなたはクリスチャンとして成長した、あるいは考え方が変わったという部分がありますか。小さなことでもかまいません。自分で気が付かないなら、他の人の助けも借りて考えてみましょう。それでも成長している点がわからないなら、何か原因がないか考えてみましょう。

2. 聖霊があなたの生活に豊かに働いてくださるために、神様の前に悔い改めなければならない罪はありませんか？もし思いつくことがあったら、紙にそのことを書き出してみましょう。

その最後にヨハネの手紙第一1章9節を書きましょう。

そして「父なる神様。私の罪をここに書き出しました。私の罪はイエス様の十字架によって赦されたことを信じます。」と言って、赦されたことをあらわす意味で、その紙を破って捨てましょう。



Lesson 3 あい愛すること・ゆる赦すこと



キリスト教のキーワードともいえる「愛」と「赦し」。この「愛」ということは、世間で使われている意味とはだいぶ違いますね。神様は私たち一人一人を愛し、罪を赦して下さいました。愛することと赦すことはイエス様が「互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34) と言われているように、私たちにに対する勧めでもあります。でも「イエス様の愛しなさいというハードルって高いなあ」と思ったことはありませんか? 「自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」(マタイ 5:44) というイエス様のことは、自分のきれいな人、苦手な人を愛しなさいという意味です。そんなことってできるのでしょうか?



1. ただで赦され、愛されている私たち

最初に確認しておきたいことは、私たちはただで罪を赦され、愛されている罪人であるということです。イエス様はマタイの福音書18章21~35節のたとえ話の中で、私たちに1万タラントの借金のあるしもべに例えておられます。このしもべは、本当は自分自身も家族も持ち物も売って返済しなければならぬほど多額の借金をしていました。しかしそれらをすべて売ってしまったら人生は破滅です。必死に返済を待ってほしいと願うこのしもべを、しもべの主人はかわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してくれたのです。借りたのはしもべであり、自分でまいた種は自分が刈り取らなければならないのに、主人はこのしもべをあわれんで、すべてを帳消しにしてくれたのです。私たちは神様に愛され、神のあわれみをいただいて、罪を赦していただいた神のしもべなのです。

2. クリスマンでも・・・

あわれみによって罪が赦された私たちは、神様の愛をいただいて人を愛することができるようになりました。ところが、必ずしも喜びにあふれ、人を赦し、愛していない現実があります。自分が相手を思いやっていたことが誤解される、行き違いがあって友人と関係が悪くなってしまう、親や先生に訳もわからずに怒られる、何もしていないのにひどいことを言われるなどということもあるでしょう。そんなことで腹が立つことがあったり、怒りや憎しみを持つほど相手がいやになったりすることがあります。

3. 赦さないことが与える影響

けれども、赦さない、愛せないという思いをもったまま、私たちが生活するとどうなるのでしょうか? 先ほどのたとえに登場した、1万タラントを赦してもらったのに、100デナリを赦すことができなかつたしもべのように、人生を狂わせるほどの影響が及んでいきます。

(1) 神との関係に与える影響

まず最初に神様との関係がうまくいかなくなります。なぜなら、赦さなかったり、愛さないでいると、神様の愛が本当にはわからないからです。さらに「愛し合いなさい」「赦しなさい」と言われている神様の命令にそむく罪にもなります。罪を犯し続けたままでは、私たちと神様との関係は正常なものにはなりません。お祈りしても平安がなく、心から礼拝をささげることができなくなります。赦さない、愛さない状態は、私たちの信仰に重大な影響を及ぼしてしまうのです。

(2) 人との関係に与える影響

赦せない人との関係がぎくしゃくしたり、表面的なものになってしまいます。特に相手が身近な人である場合にはなおさらです。「互に愛し合いなさい」という関係とはほど遠いものになってしまいます。

(3) 自分自身の生活に与える影響

怒り、憎しみ、赦せない思いは、私たち自身の生活にもいい影響を与えません。いらいらしたり、他の人に対してきつくなってしまうたり、落ちついて勉強や仕事ができなくなったりします。人を赦すのは、相手の人のためというよりもあなた自身のためです。あなたが人を赦さないでいる限り、あなたはそのことにとらわれ、神様からいただける本当の自由を経験することができないのです。

神様も罪を犯し続けているクリスチャンを放っておかれることはなさらないでしょう。毎日の生活の中で、またみことばから、警告のサインを出してくださることもあります。

4. 赦す心、愛する心は神様から

神様に従って赦し、愛せるように努力してみようと思った人もいるでしょう。けれども、そんなことは自分には無理だということに気づくことも多いと思います。特に自分に非がないのに相手からひどい仕打ちを受けた場合は、赦すことは簡単ではないでしょう。

自分の中のいやな思いをただ隠してふたをしておくだけでは、やがてそれがまた出てきてしまいます。自分で抑え込むことはできませんし、自分で人を愛そうとしても表面的なもので終わってしまうのです。

憎しみ、赦せない思いを捨て、赦す心、愛する心を持つためには神様の助けが必要です。人を愛する心、赦す思いは神様からいただくものです。自分でがんばろうとするのではなく、神様に「愛する心をください」と祈ることです。本当かなと思うあなたは、神様に信頼して、祈ってみてください。神様はあなたの祈りを聞いて、必ず助けてくださいます。また、あなたを取り巻く状況を変えてくださることもあるでしょう。

赦すというのは、相手のしたことを悪くなかったことにしたり、現実を見なかったり、正しいことを曲げることではありません。憎しみや怒りの感情から解放されて自分の中でのこだわりがなくなることです。最終的に公正な判断をされる神様にゆだねましょう。

大人であっても、信仰生活の長い人であっても、多くのクリスチャンが人を赦さない、愛せないという経験をしています。おそらく天国に行く時まで、人を赦し、愛するというチャレンジは続くでしょう。

自分の無力さを素直に認め、自分には人を本当に愛する力がないことを認めて、神様の前にへりくだりましょう。きっと神様があわれんでくださいます。もしあなたが今、まさにこの問題に直面しているなら、ぜひ神様に信頼してお祈りしてください。神様への信頼、それが、あなたがいただいた信仰です。今こそいただいた信仰を働かせましょう。

まとめ

人を赦せないとき、愛せないときは、まず自分が神様に愛され、赦された罪人であることを思い起こしましょう。そして、自分には人を赦し、愛する力がないことをみとめ、神様に助けを求めて祈りましょう。そうすればきっと神様は私たちの心から憎しみや怒りをとりのぞき、愛する心を与えてくださいます。信じましょう。

☆聖句

「自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。」(マタイ 5:44)

「それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」(コロサイ 3:12~13)



かんが 考えてみよう

1. あなたには今、赦せない人、愛せない人がいますか。
2. その人との関係について、神様に祈ったことがありますか。もしまだなら、お祈りしましょう。その人を赦し、愛することができるように、神様の助けを祈りましょう。神様は私たちの祈りに答えて、思いがけない方法でその人を愛することができるようにしてくださるでしょう。神様に信じましょう。



Lesson 4 まじ 交わり



教会ではよく「交わり」ということばを使います。使徒信条にも「聖徒の交わり」ということばがあります。教会では、二つの交わりをととても大切にしています。一つは神様との交わり、もう一つは他のクリスチャンとの交わりです。ここでは、他のクリスチャンとの交わりについて考えてみましょう。



1. 聖徒とは？

使徒信条の「聖徒の交わり」の中にある「聖徒」とは、クリスチャン、つまりイエス様によって聖くされた者たちという意味です（Iコリント 1:2）。そして神様はクリスチャンたちに、神の子となる特権をくださいました（ヨハネ 1:12）。同じ父を持つ子どもたちは兄弟姉妹だから、自分と他のクリスチャンとは永遠に続く兄弟姉妹の関係にあり、神様を中心とした家族です。つまり私たちには、神様によって家族にさせていただいた兄弟姉妹が世界中にいるのです。

2. なぜ他のクリスチャンとの交わりは大切？

(1) 神様が他の人と生きるように私たちを造られたから

創世記で神様は、「人が、ひとりであるのは良くない」（2:18）とおっしゃいました。このときアダムは神様と親しい関係にあったのですが、神様はアダムにふさわしい助け手が必要だと考えられ、エバを造られたのです。神様は、もともと人がひとりでは生きられないようにお造りになったのです。

(2) 神様のかたちに造られたから

私たちが信じている神様は、父なる神、子なる神、聖霊なる神で一人、という実に不思議な関係をご自身の中に持っておられます。簡単にいうと、神様はご自身の中に交わりを持っておられます。ですから、神様は他の人格と交わることのすばらしさ、喜び、大切さをよくご存知です。そして私たち人間を「神様のかたち」（創世記1:26～27）に造られました。つまり、私たちにも他の人との関係の中で生き、すばらしい交わりを持つことを望んでおられるのです。私たちは交わりを喜ばれる神様に似たものに造られています。

(3) クリスチャンとしての成長に大切だから

他のクリスチャンとの交わりは、私たちの信仰の成長にとって不可欠です。私たちは兄弟姉妹と話をすることによって、他のクリスチャンが実際にどうやってみことばに生きているか、実際にどのように誘惑に打ち勝っているか、どんなふうにもこの世でイエス様を証しているか、どんな試練をどのように切り抜けたのかなどを知ることができます。このような交わりをとおして、私たちもこの世で生きていくのです。伝道者の書には「もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ

「燃りの糸は簡単には切れない」(4:12)とあります。みんなで励まし合えるって、素晴らしいですね。

(4) 聖書が他のひととの交わりをもって生きることを勧めているから

聖書、とくに新約聖書には「互いに」ということばが何度もできます。イエス様はヨハネの福音書で「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです」(15:12)と言われました。またパウロは、「互いに忍び合い…、互いに赦し合いなさい」(コロサイ 3:13)、「互いに教え、互いに戒め」(コロサイ 3:16)と言っています。これは兄弟姉妹と一緒に歩んでいることを前提としていることばです。私たちクリスチャンは、互いに愛し合い、忍耐し合い、教え合ったり、注意し合ったりして、歩んでいくのです。

3. いろいろな交わりのかたち

(1) 礼拝による交わり

一緒に集まってささげる礼拝で、私たちは他の兄弟姉妹とともに神様を見上げます。神様との縦の関係と同時に、ともに礼拝している兄弟姉妹との横の関係も存在しています。一緒に王なる救い主イエス・キリストを礼拝する、そこにはすでに兄弟姉妹との交わりが生まれているのです。

(2) 食事による交わり

使徒の働きには、誕生したばかりの教会で、皆がともに食事をしながら交わることが大切な活動であったと書かれています(使徒2:42,46)。あなたの教会でも、よくみんなで一緒に食事をするでしょう。それはただ食事をするというだけのことではなく、教会が大切にしている交わりの一つのかたちだからです。各教会によって食事の仕方は違うかもしれませんが、もし食事の機会があれば、ほかの年代の人も交わるように積極的に参加しましょう。

(3) 祈りによる交わり

ほかの人と話すのが苦手だという人もいるかもしれませんがね。そんな人にもできる交わりがあります！それは、兄弟姉妹のために祈ることです。他の兄弟姉妹の祈りの課題(テスト、入試、病気、困難、問題など)をもらって、祈りましょう。もちろん教会の中であなたのために祈ってくれている人もいます。お互いに祈り合うこと、これはまさにクリスチャンならではの素晴らしい交わりなのです(ヤコブ 5:16)。教会の祈り会に出席することも、私たちが祈りの交わりをもつことを助けてくれます。

(4) 支えることによる交わり

物質やお金や自分の力をもって他の聖徒たちを助けることも、聖書では「交わり」と呼んでいます(Ⅱコリント 8:4)。自分の教会にいる兄弟姉妹はもちろん、開拓教会など他の教会を助けること、開発途上国にいる兄弟姉妹を援助すること、献金をささげることなどが考えられます。あなたが今できることを考えて、実際にやってみましょう。

おしゃべりしたり、一緒に楽しいことをするのは大切です。でもそれだけではなくて、クリスチャン

同士の交わりにはもっと深い意味があるということがわかりますね。同世代のクリスチャンとの交わりも、年齢の違うクリスチャンとの交わりも私たちにとってとても重要なのです。何より交わりは、神様が私たちの祝福のために望んでおられ、また命じられたことなのだということを覚えて、どうしたら、もっと他のクリスチャンとの交わりを深めることができるか考えてみましょう。

※同世代の集まるグループ

同じ悩みを共有したいのに、教会には同世代のクリスチャンが少ないというあなたには、高校生が集まるhi-ba.という団体や、バイブルキャンプ場が企画している中学生、高校生キャンプに参加するという方法もあります。そこにはあなたと同じ世代のクリスチャンがいます。各団体はホームページを持っていますから、まずはチェックしてみてください。

まとめ

私たちは他の人との交わりの中で生きるように神様に造られた存在です。そして聖書は私たちに互いに交わることを勧めています。どうしたら、他の兄弟姉妹とよりよい交わりを持つことができるか考え、祈ってみましょう。

「人が、ひとりであるのは良くない。」(創世記2:18)

「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」

(使徒2:42)

「そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。」(使徒2:46~47)

考えてみよう

1. あなたの教会にはどんな交わりがありますか？

2. あなたは教会の交わりを喜んでいますか？もしあまり気がすまないならそれはなぜでしょうか？

3. 教会に神様が喜ばれる交わりが増えるためにはどうしたらよいでしょうか？何かアイデアがあれば教会や牧師先生に提案してみましょう。



Lesson 5 教会



あなたが所属している教会はどんなところでしょうか？

日本同盟基督教団の信仰告白の第6項は、教会についてこんなまとめをしています。

「教会は、聖霊によって召し出されたキリストの体であって、キリストはそのかしらである。贖われた者はみなその肢体である。地上の教会は、再び来たりたもう主を待ち望みつつ、聖書の真理に立ち、礼拝を守り、聖礼典を執行し、戒規を重んじ、すべての造られたものに福音を宣べ伝える。」

少しむずかしい表現ですが、この信仰告白にまとめられているポイントを参考にしながら、教会とはなにかについて考えてみましょう。



教会は、屋根に十字架がついている建物のことではありません。そこに集まっている人たちの集まりを指しています。この教会にはおもにふたつの特徴があります。

1. 召し出された群れ

(1) 誰によって召し出されたの？

あなたはどのようにしてイエス様を救い主として信じましたか？

私はクリスチャンホームで育った子どもではありません。高校生になるまで聖書を読んだことも、教会に行ったこともありませんでした。私は勉強のためではなく、遊びを目的に東京の市部の街中にある高校に行きました。その高校で生徒会活動をしているときの顧問の先生がクリスチャンだったのです。そして、その先生を通して聖書を読むようになり、やがてその先生が行っていた同盟教団の教会に通い、イエス様を救い主として信じました。

私たちはそれぞれいろいろなきっかけや出会いがあって、イエス様を救い主として信じました。しかし実はその背後に三位一体の神様のお働きがあったのだと、聖書は教えています。

召し出すとは、呼び出すという意味です。私たちは、父なる神様の救いのご計画(エペソ 1:3~4)があり、イエス様によって選ばれ(エペソ 1:4、ヨハネ 15:16)、聖霊なる神様によってイエス様を信じる信仰へ導かれました(1コリント 12:2~3)。このように私たちは三位一体の神様のお働きによって、イエス様の救いに召し出されました。

(2) どこから？どこへ？

私たちは、イエス様を救い主として信じていなかった時、罪の闇の中を歩いていました。イエス様は私たちをそこから救い出してくださって「驚くべき光の中」を歩くことができるように召し出してくださいました(1ペテロ 2:9)。

(3) 何のために？

ペテロの手紙第一2章9節は、私たちが(教会)がイエス様によって救われた目的(使命)を、「やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるため」と言っています。私たちがイエス様を信じて救われたのは、自分が救われてよかった、で終わりではなくて、このイエス様の救いを伝えるためなのです。イエス様は私たちがこの使命を果たすことができるように教会へと召し出してくださったのです。

2. 教会はキリストのからだ

聖書は、教会は「キリストのからだ」だと言っています(Iコリント 12:27)。私たちはイエス様を救い主として信じて洗礼を受け、それぞれの教会の一員になりました。それは私たちがいっしょに礼拝をささげ、イエス様の救いを宣べ伝えるためにそれぞれの働きをするためなのです。

(1) かしらはキリスト

教会のかしらはイエス様です。だから私たちはいつでも聖書を通して、イエス様が私たちにどんなことを命じているか、期待しているかを知ることが大切です(コロサイ 1:18、2:6~7)。

(2) 私たちはからだの各器官

パウロは、コリント人への手紙第一12章で、私たちのからだを例にあげてキリストのからだである教会の特徴を教えています。

- それぞれ(Iコリント 12:18、27)

私たちのからだにはいろいろな器官があってそれぞれの働きをしています。鼻には鼻の、目には目の働きがあります。それと同じようにキリストのからだの一員である私たちにも、それぞれに大切な働きがあります。あなたはイエス様に仕えるために、イエス様の救いを宣べ伝えるために、どんなことができますか?できることを積極的にやってみましょう。

- 一つ(Iコリント 12:12、20)

私たちは、キリストのからだの各器官として、それぞれのユニークさを発揮してイエス様に仕えることができます。だからといって、みんなが好き勝手なことをやっていいということではありません。「器官は多くありますが、からだは一つなのです。」(Iコリント 12:20)。だから私たちはお互いの考えや働きを尊重して、お互いに調整し合って、力を一つに結集して主に従っていくことが大切です。

- とともに(Iコリント 12:25~26)

今の時代は、近くにいる人たちにさえ、あまり関心を持たない時代です。でも教会は違います。私たちは同じ神様をお父さんと仰ぎ、同じ救い主を信じて、同じ御霊なる神様に導かれて生きる者です。だからお互いに関心を持ち、ともに祈り合い、励まし合い、助け合い、力を合わせていきましょう。

教会の使命は、「あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝える」(Iペテロ 2:9後半)ことです。この使命を果たすために、教会には様々な働きがあります。詳しくは、Lesson6~11で学びます。

まとめ

私たちは、イエス様のすばらしい救いを経験して、その救いを伝えるために教会に集められました。私たちの使命は、イエス様の救いを宣べ伝えることです。ですから私たちは、いっしょに集まって礼拝をささげ、助け合って、かしらであるイエス様のお考え—神のみこころ—を実行していきましょう。

☆聖句

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、主である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」(1ペテロ 2:9)



かんが 考えてみよう

1. あなたは今いる教会にどのように所属しましたか。

2. 教会にいる方々は、神様を同じお父さんとして持つ神の家族です。家族はいいところばかりがあるわけではありませんが、皆が互に関心を持ち、祈り合います。あなたは教会の人たちを家族のように思いますか。もし思うとしたら、それはどんなことによつてですか。

3. 教会の使命は、イエス様による救いという神様のすばらしいみわざを、まだイエス様を知らない人々に宣べ伝えることです。あなたの教会は、どんなことを通して、イエス様を宣べ伝えていきますか。



Lesson 6 れいはい 礼拝



ある人がこんなことばを残しています。「週の初めに、神様を礼拝することを忘れる者は、週の終わりに自分がクリスチャンであることを忘れる。」私たちがクリスチャンとして神様を礼拝して生活していくためには、毎週の礼拝を守ることがとても大切です。では私たちにとって神様を礼拝することは、日曜日のわずか一時間半のことで、あとの一週間の時間(残り約166.5時間)は、神様を礼拝することと関係のない時間なのではないでしょうか？この学びでは、毎週の礼拝と私たちのクリスチャン生活(神様を礼拝する生活)との関係について、詩篇100篇を読みながら考えてみましょう。



1. 主の招き

「全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。」
(詩篇100:1~2)

礼拝のプログラムにある「招詞(しょうし・まねきのことば)」には、神様が、罪をゆるされ、神の子どもとされた私たちをご自分のところに招いてくださるという意味が込められています。私たちがささげる礼拝は、主の御前に出て、主なる神様とお会いするとても大切な時間です。

また招詞は、これから始まる一週間についても、神様が私たちをご自分のところに招いてくださって共に歩んでくださることを知らせているのです。私たちは毎週の礼拝を出発点にして、主イエス様が新しい一週間も共に歩んでくださることを再確認します(マタイ 28:20)。

2. 主に仕える

「喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。」(詩篇100:2)

ひとつの教会で礼拝が行われるためには、目に見えるところ、目に見えないところで多くの人たちが神様に仕える奉仕をしています。司会者や奏楽者、説教者、受付、週報印刷、会場係、案内係、献金係、放送係、お花係、賛美リーダー、掃除当番などです。教会の多くの人たちが、毎週忠実にこのような働きをしています。中高生の皆さんの中にも、洗礼を受けて教会員になり、すでにそのような奉仕に加わっている人もいますことでしょう。私たちが毎週の礼拝を通して、主に仕える生き方を身につけることができるのです。

3. 主を知る

「知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊である。」
(詩篇100:3)

詩篇100篇3節は、私たちの礼拝の大きな目的のひとつが「主を知る」ことだと言っています。

- ・主こそ神：主は私たちが従う唯一のお方です

- ・主が私たちを造られた：主が私たちを造ってくださいました
 - ・私たちは主のもの、主の民、その牧場の羊：主が私たちを育ててくださいます
- 私たちは、主なる神様がこのようなお方だということを礼拝の一つ一つのプログラムを通して知ることができます。特に聖書朗読と説教のときは、そのためにとても大切な時間です。礼拝で説教をよく聞くことを通して、私たちは主なる神様のことをさらに良く知ることができるようになります。毎週の礼拝説教は、私たちが毎日聖書を読んでお祈りするためのヒントがたくさん盛り込まれています。牧師や伝道師がどのように聖書を読んでいるのか、そこからどんなことを教えられたのか、聖書のみことばによってどのように生かされているのか、ぜひその秘訣を盗み取ってください。これを盗まれても、牧師も伝道師も困りませんから。

4. 主を賛美する

「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その真実が代々に至る。」(詩篇100:4~5)

私たちは礼拝で神様を賛美することを通して、毎日神様を賛美することを身につけていくことができます。ぜひ礼拝で歌う賛美を覚えましょう。そして、毎日の生活の中でその賛美を口ずさんで、いつも神様を賛美するものとなりましょう。

「私はあらゆる時に主をほめたたえる。私の口には、いつも、主への賛美がある。」(詩篇34:1)

私たちはこのように毎週の礼拝を通して、毎日、神様を礼拝して生きることの基本を身につけていくことができます。※賛美については、Lesson12で学びます。

5. 礼拝を守るために

毎週の礼拝はこのように大切な時間です。では礼拝を守るために私たちはどんなことに気をつけていたらいでしょうか？

(1) 毎週礼拝を守ることができるように

健康が守られ、その日に用事が入らないようにお祈りしましょう。土曜日はできるだけ早く休んで、日曜日の朝にきちんと起きられるようにしましょう。自分だけではなくて教会でいっしょに礼拝するひとりひとりがみことばに従う生活ができるように、司会者、奏楽者、説教者、献金の祈りをする人などのためにもお祈りしましょう。

(2) 自分の生活の中で教会の礼拝を一番に考える

私たちの生活は日曜日の礼拝から始まります。みんなでいっしょに教会に集まって、賛美や祈りをささげ、神様のみことばを聞くことを一週間のスタートとしていくことが、神様に喜ばれる生活の基本です。

ですから、義務感からではなくて、私たちが愛してくださる神様との交わりのときである礼拝を大切にしましょう。またどうしても礼拝を欠席するときには、きちんと教会に連絡をしましょう。教会の

礼拝の日であることを覚えて、短くても自分で聖書を読み、祈る時間を作りましょう。

まとめ

私たちは、毎週の礼拝を守ることを通して、24時間365日の礼拝の生活・クリスチャン生活の基本を身につけていくことができます。

☆聖句

「全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。

喜び歌いつつ御前に来たれ。」(詩篇100:1~2)



かんが 考えてみよう

1. 日曜日の礼拝で、神様にお会いしているという実感がありますか。

2. 教会の先輩が毎日の生活の中で、どのように神様に仕えて生きているか、話を聞いてみましょう。どんなことを、模範にすることができるでしょうか。

3. 今日の(今週の)説教から何か覚えていますか。そこから、どのように聖書を読んで、自分に当てはめたらいいか、秘訣をひとつ見つけてみましょう。



Lesson 7 せいさんしき 聖餐式



洗礼を受けてはじめて聖餐式に出たときの事を覚えていますか？今まで見るだけだった式に参加したことに喜びを感じた人もいます。聖餐式は、教会が歴史を通じて守ってきた礼典のひとつですが、儀式であるために、なんとなく「かたくるしいなあ」と思ったり、意味をあまり考えないまま受け取っている人もいるかもしれません。

受洗前に学んだ人も、ここでもう一度、聖餐式のフカ〜イ意味について学びましょう。



1. 聖餐式を命じられたのはだれ？

それはずばり！イエス様です。十字架におかかりになる前の夜に、弟子たちと食事をしておられるとき、イエス様は食卓の上にあったパンとぶどう酒をおとりになり、「これはわたしのからだです」「これはわたしの契約の血です」（マタイ 26:26,28）と言われました。そしてそれを食べ、飲むように弟子たちに命じられました。コリント人への手紙第一11章24節には、「わたしを覚えて、これを行いなさい」と書いてあります。聖餐式のやり方は、教会によって少しずつ違いますが、どの教会もこのイエス様の命令を守って、今に至るまで二千年間、ずっと聖餐式を守ってきたのです。

・ 教会が聖餐式を続ける意味は？

教会が聖餐式を続けている理由は、少なくともつぎの3つあります。

(1) イエス様がくださったことを思い起こすため

第一には、イエス様がなんのために十字架にかかってくださったか思い起こすためです。えっ、「そんなこと知っているよ」って？もちろん、すべてのクリスチャンはそのことを信じて洗礼を受けたのだから、みんな知っていますね。それにもかかわらず、イエス様が続けなさい、と言われたのは、そのことを信じたというだけでなく、今も信じているということを確認するためなのです。

聖餐式は、イエス様ご自分の十字架によって私たちの罪を赦してくださったことを、目にみえる形で表している式です。パンはイエス様が十字架の上で裂かれたおからだを、ぶどう液は私たちのために流して下さった血をあらわしています。パンを食べ、ぶどう液を飲むという体験をすることで、私たちはイエス様が私たちの身代わりになって十字架で死んでくださったことを思って、「ごめんなさい」、「感謝します」という気持ちをますます強くするのです。

(2) いただいた永遠のいのちを養っていただくため

また聖餐式は、イエス様を信じる者たちの霊的な養いです。クリスチャンはイエス様によって、新しいいのちをいただきました。そのいのちは、永遠のいのちです。このいのちには霊的な栄養が必要で

す。聖餐式は、みことばとともに、私たちが霊的に養ってくれます。ヨハネの福音書6章51節に「わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きています。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」とあるとおりです。この霊的なごはんによって、私たちの霊的ないのちは成長します。

また、パンを食べ、ぶどう液を飲む、という体験をすることで、「わたしはいのちのパンです」(ヨハネ 6:35)と言われたイエス様が、確かに私のうちに住んでくださり、イエス様といっしょに生きるのだ、ということを確認することができます。ですから、生き生きとした信仰をもつクリスチャンであるために、聖餐式への出席はとても大事です。月に1回行っている教会が多いですが、教会によっては毎週行っているところもあります。

(3) ともにいただく兄弟姉妹とひとつとなるため

聖餐式はパンとぶどう液をいっしょにいただくことによって、兄弟姉妹と私を一つにします。イエス様をいただいてイエス様と一つとなった私が、同じようにイエス様と一つとなった他の兄弟姉妹とも一つになります。これが教会です。教会は、イエス様の体と血を表す同じパンとぶどう液をいただくことで、ひとつの体となり、成長していきます。その教会の一員であるということを確認するためにも、聖餐式にあずかることはとても大切なことです。

※聖書にはぶどう酒と書いてあるけど・・・

今ほとんどの教会ではぶどう酒は使っていません。それはイエス様の生きておられた当時と生活習慣が違うからです。イエス様は、食事の際に、身近にあり、またイエス様の血をあらわすのに適切だったぶどう酒をお使いになりました。大事なことは、それがイエス様の流された血をあらわしているのだと私たちがわかることです。

3. 聖餐式にふさわしい人になるには？

聖餐式に何度も出ているとだんだん慣れてきて、あまり意味を考へないで、受け取ってしまうこともあるかもしれません。コリント人への手紙第一11章27～29節を読んでみましょう。「ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります」と書いてあります。ふさわしくないままで、パンとぶどう液を受け取ってはならないと言っています。ではどうすれば、聖餐式を受けるのにふさわしい人になれるのでしょうか。

ほとんどの教会の聖餐式には、パンとぶどう液を受け取る前に、自分のことを考へて祈る時間があります。そのとき、自分が赦された罪人であること、罪をイエス様が負ってくださったのだということ、赦されなければ生きられない者なのだということを吟味し、自覚し、確認することが大切です。ですから、イエス様に自分の罪を悔い改め、赦して下さったことへの感謝をささげる人が、聖餐式を受けるのにふさわしい人です。自分はパンとぶどう液を受け取るには、あまりにもふさわしくない罪人だけけど、イエス様が愛して救ってくださったのだと信じる信仰をもつこと、これがもっともパンとぶどう液を受け取るのにふさわしいあり方なのです。

まとめ

聖餐式は、イエス様が命じられた、教会にとって洗礼式と並んで大切な礼典です。これがないとキリスト教会ではないと断言できるほど大事です。今度の聖餐式には、その深い意味を思いつつ、パンとぶどう液をいただくようにしましょう。

☆聖句

「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

「みな、この杯から飲みなさい。これは、私の契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。」(マタイ 26:26~28)



かんが 考えてみよう

1. 聖餐式にふさわしい人とはどういう人でしょうか？

2. 一番最近、聖餐式に出たのはいつでしたか？どんな気持ちでできましたか？

3. 今度の聖餐式はいつですか？そのときは、今日学んだことを心にとめて、どんな思いで聖餐にあずかりたいですか？



Lesson 8 せいしょ よ いの 聖書を読むこと・祈ること



聖書を読むことと神様にお祈りすることは、あなたにとってどのくらい重要なことですか？聖書を読むことは神様のことを聞くこと、神様にお祈りすることは神様とお話すること。どちらも神様とコミュニケーションするための大切な手段です。罪を赦され、神様との関係が回復したクリスチャンは、神様との個人的なコミュニケーションの時間をとることによって、神様との関係をより深めていきます。それはクリスチャンがこの世で生きていくために、また自立したクリスチャンとして成長するためにも、とても大切です。



1. イエス様も父なる神様と交わられた！

福音書を読むと、イエス様がたびたび祈りのために毎日の忙しい生活から離れる場面が記されています。たとえば、マルコの福音書1章35節には、「さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた」、また6章46節には、「それから、群衆に別れ、祈るために、そこを去って山のほうに向かわれた」ともあります。イエス様の生活は、いつも弟子たちがそばにいたり、助けを求める大勢の群衆があふれていて、とても忙しいものでした。でも私たちがよく言うように、「忙しくて祈る暇なんかなかった」ということではないようです。それどころか忙しい中で「朝早くに」、あるいは「群衆を解散させて」（6章45節）、どうにかして父なる神様と交わる時間をとろうとしておられる姿が描かれています。

なぜでしょうか？それは、あなたがごはんを大事にするぐらい、イエス様にとって神様との交わりは大事なことだったからです。イエス様は神様と交わることによって、その日生きる力と必要な知恵と愛を豊かにいただいております。イエス様でさえ！です。さらに大きなみわざをなされる直前にも、イエス様は時間をもって神様に祈りをささげられました。12弟子を選ばれる前（ルカ6:12）や、十字架にかかれる前のゲッセマネの園での祈り（マルコ14:32～39）などです。イエス様は、私たちのために大きなみわざをなして下さるためにも、神様との交わりを欠かすことはできなかったのです。イエス様はこの世でクリスチャンとして生きる私たちのモデルです。

2. 時間と場所を確保する

イエス様は忙しい中でも、神様と交わる時間をとられました。イエス様と同様に多くのクリスチャンも、一日が始まる朝の時間帯に神様との時間をとっています。朝起きて一日の支度を始める前、あるいは、通勤通学の時間帯にとる人もいます。そのために10分早く起きる人もいます。いつでもいからできるときにと思っていると、意外と時間をとれないものです。自分で決めてまず時間を確保し

ましょう。

また、イエス様は群衆や弟子たちから離れて一人になる場所も確保されました。静かに神様と交わられる寂しい所を選ばれ、特にゲッセマネの園はエルサレムにいるときには祈りの場所としてよく行かれた場所でした。あなたが一人で静まりやすい場所はどこでしょうか？自分の机でも、ベッドの上でも、一人で静まりやすい場所を考えてみましょう。

3. その方法は？

(1) 心を整える

いきなり聖書を読み始めて、神様が語ってくださる声を聞こうとするのは、結構むずかしいものです。静かに賛美をささげて心を整えたり、朝目覚めて感謝の祈りをささげて「主よ、お語り下さい」と待ち望んだ姿勢で聖書を開くなど、神様からの語りかけを聞くための心の準備が必要です。

(2) 聖書から神様の声を聞く

主は何をお語りくださるのだろうか、と期待をもって聖書を読みましょう。聖書にはいろいろな読み方があります。同じ箇所でも、読むスピードが違くと教えられることが違ったり、そのときの自分の状況に応じて、私たちが聞き取れることが違うこともあります。速くたくさん読んでもよいのですが、神様の小さなお声を聞くためには、ある程度ゆっくり読むことも大切です。いずれにしても大切なことは、神様が今日あなたに語ろうとしておられることはなんだろうと考えながら聖書を読むことです。神様の語りかけを聞き取ることを助けてくれるテキストも市販されているので、用いてもよいでしょう。

※ 中高生用のディポジションテキスト

残念ながらあまり多く市販されていません。中学生用には「ジュニアみことばの光」（聖書同盟）、高校生なら、「マナ」（いのちのことば社・携帯に配信サービスあり）、「みことばの光」（聖書同盟）、「日々のみことば」など大人用のテキストも使えるかもしれません。チェックしてみてください。

(3) 祈りをもって神様にお話する

日常の中でいつでも神様にお祈りすることができますが、特にまとまった時間をとって自分の心の中にあることを神様に話すことは、クリスチャンにとってとても大切です。私たちの困った状況、人に言えない罪、友人関係のトラブルなど、ほかの人にはなかなか言えないことも神様には話すことができます。なぜなら神様は私たちが話す前から、もうすでにそのことをご存じだからです。私たちが神様に話すことは、神様に信頼していることをあらわすことでもあります。そして信頼する者に、神様は必ず解決を与えてくださいます。

祈りは神様に話すことですから、願い事だけで終わることはありません。感謝も、報告も、困ったことも、子どもがお母さんに助けを求めて話すように、なんでも神様に話しましょう。神様との会話は、私たちに平安と希望を与えてくれます。また自分のことだけでなく、他の人々のことも祈りましょう。これをとりなしの祈りといいます。

マルティン・ルターという人は、「わたしにはあまりにも多くの仕事があって、毎日三時間は祈らないとやっていけない」と言いました。一日の初めに神様と会話することによって、今日一日、何をどのようにすべきかといった知恵が与えられて、その日にしなければならないことを落ち着いて整理することができます。ぜひあなたも、神様と交わるひとときを大切にして、クリスチャンとして豊かな実を結ぶ人になってください。

まとめ

聖書を読むことや祈ること（ディボーション）はクリスチャンである私たちのいのちの源、毎日の食事ほど大切なものです。一人で聖書を読み、祈る時間をとることは、神様との関係を大切にする事です。私たちの霊的ないのちを豊かにしていただくために、ぜひイエス様をモデルにして、ディボーションする時間をとるように心がけましょう。きっと神様のすばらしい語りかけと恵みを体験できるでしょう。

☆聖句

「さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。」
(マルコ 1:35)



かんが 考えてみよう

1. あなたは神様と一人で交わる時間をもっていますか？

はい (毎日 週に2-3回 週に1回 その他) いいえ

2. 神様を信頼して歩むクリスチャンにとって、どうしてディボーションの時間は欠かせないのだと思いますか？

3. あなたの生活の中で、いつ、どこで神様と交わる時間をとることができるでしょうか？



Lesson 9

ほうし たまもの
奉仕・賜物

あなたは教会でどのような奉仕をしていますか？何をしたらいいかわからない、という人もいるかもしれませんね。この学びでは、教会の奉仕と私たちがいただいている賜物についていっしょに考えてみましょう。



1. 奉仕とは何か？

ペテロの手紙第一 4 章 9～11 節を読んでみましょう。

(1) 奉仕とは何か？

教会で使う奉仕ということばは、「イエス様によって救われた者が、イエス様の愛にこたえようと願い、イエス様の歩まれた生き方を模範として神様と人々に仕える」という意味です。

私たち人間はもともと神様を礼拝し、神様に仕えるために造られています。私たちの人生すべてが神様にささげる礼拝、神様への奉仕といえるでしょう。だから、教会の中で行われることだけでなく、あなたの家庭や学校において、言葉と行いをもって神様の愛を示すことはすべて奉仕といえます。人に対する愛のわざも、最終的にはイエス様にしていることになるのです。

(2) 奉仕の目的

「それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです」（1ペテロ 4:11）。私たちの奉仕の最終目的は、「すべてのことにおいて、神様があがめられる」ことです。また、私たちの信仰が健康に成長していくためには、奉仕が必要です。私たちの体を健康に保つために運動が必要であるように、奉仕は信仰のエクササイズとも言えます。各自に与えられている賜物を用いて、互いに仕え合い、神様の望まれる奉仕をすることによって、私たちの信仰と教会は、健康に成長することができます。

(3) 奉仕の動機と原動力

奉仕の動機はイエス様と人に対する愛です。自己中心の思いや、優越感、自己満足の思いではありません。イエス様の愛を知れば知るほど、その応答としての奉仕の喜びも大きくなります。

私たちは何かを一生懸命やれば疲れます。問題は疲れるか疲れないかではなく、疲れ方です。自分の方だけである奉仕は、つぶやきが起り、感謝がなく、主の栄光を現さずに、疲れだけが残ります。それに対して、神様が豊かに備えてくださる力によってする奉仕は、用いていただけた充実感と神様への感謝、賛美が起ります。

2. 奉仕の心構え

(1) イエス様を模範にする

イエス様はそのご生涯で、私たちが従うべき模範を示してくださいました。「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです」(マルコ 10:45)。イエス様の生涯は、しもべとしての奉任の生涯でした。イエス様は私たちの救いのために、ご自分の命さえささげてくださいました。

(2) つぶやかないで

奉任をする時の危険は「つぶやく」、つまり文句を言うことです。「どうして私がしなくてはいけないの」「私がかんなにしているのに」「なぜ私ばかりか」とつぶやく思いがわいてきた時、真っ先に考えるべきことは、神様とあなたの関係です。あなたは、神様とどんな関係にあるでしょうか？ あなたは何のために奉任をしているのでしょうか？ あなたが今、ここに生かされていることを感謝し、一度しかない人生で、自分が生かされている意味、自分にしかできないことを考えてみましょう。他人の目や期待を第一に考えてはいけません。「つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい」(1ペテロ 4:9)。

(3) 神様が望まれるように

「語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉任する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉任しなさい」(1ペテロ 4:11前半)。ここで言われている「ふさわしく」とは、「神様が望まれるように」という意味です。私たちは自分勝手にやりたいことをすれば、奉任になるわけではありません。祈って神様が私に望まれていることは何かを、静まって聞きましょう。そして神様から確信をいただいて、奉任に励みましょう。

3. 賜物を正しく管理する

私たちには、神様から神様と教会のために用いるためのすばらしい賜物が与えられています。そして、奉任は私たち一人一人に与えられた賜物が現される場ということが出来ます。「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい」(1ペテロ 4:10)。だから、賜物を眠らせておいたり、用いないことは、神様を悲しませます。私たち一人一人に与えられている命、時間、能力、お金、健康などのすべてが神様から預かっているものです。あなたの一生の間、賜物をどう管理するかが、神様から問われているのです。

自分にどんな賜物が与えられているのかを知るために、いろんなことにチャレンジしてみてください。あなたの好み、使命感、問題意識も手がかりになります。ピリピ人への手紙2章13節には、「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」とあります。奉任をしてみて、次のことを考えてみるのもいいでしょう。①喜びがあるか、②他のクリスチャンの成長を助けているか、③実を結んでいるか。

また、賜物が与えられる目的は教会の徳をたてるためです(1コリント 12:7、14:12、エペソ 4:12)。

つまり、賜物は個人の所有物ではなく、私たちを通して教会に与えられているものです。それで、最終的には教会全体の益になっているかどうかを、教会が判断することになります。

もし、私たちがたった今、天に召されても、「よくやった。良い忠実なしもべだ」(マタイ 25:21)と神様から言われるように、悔いのないように賜物を用いていきましょう。

4. あなたのできる奉仕は？

さて、あなたのできる奉仕はなんでしょう？ 広く言えば、イエス様を喜んで生きること、どこにいても神様の栄光を現すこと。もっと具体的には、礼拝に出席すること、教会を献金や祈り、教会内の奉仕で教会を支えること、その他あなたにしかできないことをぜひ祈って考えてみてくださいね。そのために、神様からあなたにすばらしい賜物が与えられているのですから。

まとめ

私たちはイエス様によって救われて、イエス様が望まれることに参加することができるようにされました。神様が備えてくださったすべてのものを用いて、神様に豊かに用いていただきましょう。

☆聖句

「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」(1ペテロ 4:10)



かんが 考えてみよう

1. イエス様は奉仕に関して、どんな模範を示してくださったでしょうか？

2. 奉仕をする時に気をつけるべきことは何でしょうか？

3. あなたができる奉仕を教えてください。



Lesson10 けんきん かね つか かた 献金とお金の使い方



イエス様は弟子たちに、「自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」(マタイ 6:20~21)と言われました。あなたは私たちの宝のひとつである、お金をどのように使っているでしょうか？ この学びでは、献金も含めて、神様が私たちに与えてくださった宝—お金—の使い方について考えてみましょう。



1. クリスチャンステュワードシップ

私たちクリスチャンがお金の使い方を考える時に、「クリスチャンステュワードシップ」という考え方を知っていると大変助けになります。「ステュワード」とは「仕える者」を表す言葉です。主人から全財産を任されて、その家を管理する人を指しています。

(1) すべてのものは神様から与えられたもの

私たちのいのち、能力、時間、財産などは、すべて神様から与えられたものです(詩篇24:1)。神様は私たちをすべての良いもので満たして、喜ばせてくださいます(Ⅱコリント9:8)。

(2) 私たちは神の恵みの管理人

私たちは、神様から与えられたものの「所有者」ではなく「管理人」です(Ⅰペテロ4:10)。ですから任されたものを大切に管理して、有効に活用することが大切です。この考え方に立って、自分に与えられたものを神様の栄光のために活用していくことを「クリスチャンステュワードシップ」と言います。

2. 神の栄光のために用いる

このクリスチャンステュワードシップの考え方に立ったお金の使い方について考えてみましょう。

(1) 献金の意味

神様のためにお金を使うもっともわかりやすい形が献金です。献金は神様への感謝の献げ物(詩篇103:2)です。神様はいつも私たちに必要なすべてのものを満たして下さいます(マタイ6:8)。イエス様は、私たちが愛してご自分のいのちを与えて下さいました(Ⅰヨハネ3:16)。献金はその神様に対する感謝の表れです。

献金は、私たちの献身の表れ(ローマ12:1)です。献金は私たちが愛して下さっている主にすべてを委ねて、お従いすることを具体的な形で表すものです。ですから、献金に添えて自分自身を神様に献げるのだということを見えましょう。

(2) 献金の心得

では私^{わたし}たちは、どのように献金^{けんきん}を献^まげたらいいのでしょうか。
「十分^{じゅうぶん}の一^{いち}をことごとく、宝物倉^{ほうぶつぐら}に携^{たづさ}えて来^きて、わたし^{わたし}の家^{いえ}の食物^{じよくまつ}とせよ。こうしてわたしをため
してみよ。一万軍^{ばんぐん}の主^{しゅ}は仰^{おほ}せられる— わたしがあなた^{あなた}がたのために、天^{てん}の窓^{まど}を開^{ひら}き、あふれるばかり
の祝福^{しゅくふく}をあなた^{あなた}がたに注^{そそ}ぐかどうかをためしてみよ。」(マラキ 3:10)

旧約^{きゅうやく}の時代^{じだい}、イスラエル^{いすらえ}の人々^{ひとびと}は、神様^{かみさま}から与^{あた}えられたもの十分^{じゅうぶん}の一^{いち}を神様^{かみさま}への献^まげ物^{もの}として献^まげ
ていました。ところが彼ら^{かれ}は、神様^{かみさま}への十分^{じゅうぶん}の一^{いち}の献^まげ物^{もの}をい加減^{かへん}な心^{こころ}でするようになっていき
ました。それで神様^{かみさま}は預言者^{よげんしや}マラキ^{まらき}を通して、彼ら^{かれ}の献^まげ物^{もの}の姿勢^{しせい}を正^{ただ}されました(マラキ 1:6~9)。
そして神様^{かみさま}は、イスラエル^{いすらえ}の民^{たみ}に新^{あたら}しいチャレンジ^{ちやれんじ}を与^{あた}えられました。もし、神^{かみ}の民^{たみ}が自分^{じぶん}に与^{あた}えら
れたもの十分^{じゅうぶん}の一^{いち}を神様^{かみさま}に献^まげるなら、それ以上^{いじょう}のあふれるばかりの祝福^{しゅくふく}(物質^{ぶつしつ}的にも、精神^{せいしん}的^{てき}に
も)で満^みたしてあげる。だから神様^{かみさま}を試^{たま}してみなさいと言^いわれました。教会^{きやうかい}ではこの神様^{かみさま}からのチャ
レンジ^{ちやれんじ}と約束^{やくそく}の言葉^{ことば}をもとに、十一^{じゅういち}献金^{けんきん}(月定^{げつてい}献金^{けんきん})をしています。あなたも、この神様^{かみさま}のチャレン
ジにこたえてみましょう。

また、献金^{けんきん}は神様^{かみさま}への信仰^{しんこう}の応答^{おうたう}として、自分^{じぶん}から進^{すす}んで献^まげるもので、誰か^{たれ}から強^{きやう}制^{せい}されてする
ものではありません。「ひとりひとり、いやいやながらでなく、強^しいられてでもなく、心^{こころ}で決^きめたとお
りにしなさい。神^{かみ}は喜^{よろこ}んで与^{あた}える人^{ひと}を愛^{あい}してくださいます。」(Ⅱコリント 9:7) と書^かかれているとお
りです。

(3) 献金の種類

教会^{きやうかい}の献金^{けんきん}には、月定^{げつてい}献金^{けんきん}(十分^{じゅうぶん}の一^{いち}献金^{けんきん})、礼拝^{らいはい}献金^{けんきん}、感謝^{かんしや}献金^{けんきん}や宣^{せん}教^{きやう}のため^{ため}の献金^{けんきん}など、い
ろいろな献金^{けんきん}があります。皆さん^{みなさん}は自分^{じぶん}のお小遣^{こづか}いの中^{なか}から献金^{けんきん}をすることになると思^{おも}うので、どのよ
うに献金^{けんきん}したらいいか教会^{きやうかい}学校^{がっこう}の先生^{せんせい}などに相^{そう}談^{だん}して、具^ぐ体^{たい}的^{てき}なア^あドバ^いイス^いをしてもら^{もら}うとよいでし
ょう。

3. 人のために用いる(施し)

聖書^{せいしょ}が教^{おし}えている施^{ほどこ}しは、自分^{じぶん}が持^もっているものを使^{つか}って他^{ほか}の人^{ひと}を助^{たす}けることです。「よかつたら使^{つか}
ってね」という感^{かん}じです。日本語^{にほんご}が持^もっている、ちょっと上^{うへ}から自^め線^{せん}で人^{ひと}に施^{ほどこ}しをするという感^{かん}覚^{かく}と
は違^{ちが}います。聖書^{せいしょ}は、愛^{あい}とは、自分^{じぶん}の富^{とみ}を用^{もち}いて困^{こま}っている兄^{きやうだい}弟^{だい}—クリスチャン^なの仲^{なか}間^まはもちろんの
こと、助^{たす}けを必^{ひつ}要^{よう}としている人^{ひと}すべて一^{ひと}を、自分^{じぶん}のできる形^{かたち}で助^{たす}けることだ^{おし}と教^{おし}えています(Ⅰヨハ
ネ 3:16~18)。私^{わたし}たちにとって大^{たい}切^{せつ}なことは、神様^{かみさま}が下^{くだ}さった恵^{めぐ}みを独^{ひと}り占^じめしない^で、みんな^{みんな}で分^わけ
合^あって喜^{よろこ}ぶことです。心^{こころ}の姿^{しせい}勢^{たいせつ}が大^{たい}切^{せつ}です。

4. 自分(家族)のために用いる

私^{わたし}たちは、「自分^{じぶん}のお金^{きん}を自分^{じぶん}の好^すき勝^か手^てに使^{つか}ってどこが悪い^{わるい}。」ではなく、「自分^{じぶん}のお金^かは神様^{かみさま}が与^{あた}
えて下^{くだ}さったものだから、神様^{かみさま}のみ心^{こころ}に従^{したが}って大^{たい}切^{せつ}に使^{つか}って、神様^{かみさま}が与^{あた}えて下^{くだ}さったもの^を喜^{よろこ}ぼう。」
と、神様^{かみさま}に感^{かん}謝^{しや}をして使^{つか}うことが大^{たい}切^{せつ}です。筆^{ひつ}者^{しや}が若^{わか}い頃^{ころ}、お世^せ話^わにな^なったクリスチャン^{せん}の先^{せん}輩^{ぱい}は、ご

自分の経営する会社に「第三製薬」という名前を付けて、神様第一、家族第二、自分は第三とこの姿勢を表していました。このことは、収入が増えること、より良い暮らしをすることを否定するわけではありません。けれども、神様が与えて下さっている物で満ち足りることを知らない、私たちはイエス様のたとえ話に出て来る愚かな金持ち(ルカ 12:13~21)のように貪欲の奴隷になってしまいます。

まとめ

私たちは、神様から与えられたたくさんの恵みを管理する大切な働きを任されています。献金は、私たちの神様に対する感謝と献身の表れです。ですから、心から献げましょう。

神様は、私たちが家族や自分のためにお金を、感謝しつつ、大切に用いて、私たちが喜んで生きることを願っておられます。また、私たちが自分のお金を、他の人のために役に立てることも喜んでくださいます。

私たちは、神様から与えられたお金をみ心になんて有効に使うことによって、私たちも神様の祝福を共に喜び、神様の栄光をあらわすことができるのです。

☆聖句

「ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛して下さいます。」(IIコリント 9:7)



考えてみよう

1. あなたは現在、ひと月のお小遣いをどのように使っていますか？具体的に書いてみましょう。

2. 自分のお金の使い方、変えたほうがよいところがありますか？もしあったら神様の助けを求めてお祈りしましょう。

3. あなたができる施しはどんなことでしょうか？できることを実行してみましょう。



Lesson 11

でんどう
伝道

「伝道」という言葉を知っていますね。教会ではよく使われることばです。では、伝道は、だれがするのでしょうか。そもそも伝道ってどういうことで、私たちのクリスチャンとしての歩みとどうかかわるのでしょうか？



1. 伝道ってなに？

伝道とは、イエス・キリストの福音（よい知らせ）をまだイエス様を知らない人たちに伝えることです。福音の内容は、ヨハネの福音書3章16節に要約されています。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。

神様は自分の罪のために滅びに向かっている私たちを救うために、イエス様を地上に遣わしてくださいました。イエス様は、私たちの罪を身代わりに負って十字架にかかって死んでくださり、三日目によみがえってくださいました。そのことを信じる者は、救われて永遠のいのちが与えられるのです。私たちはこのことを信じてクリスチャンになったわけです。そしてこの同じ福音を、他の人に伝えることが伝道です。

2. なぜ伝道するの？

あなたに福音を伝えてくれた人は、なぜ伝えてくれたのでしょうか？それはあなたを愛しているからですよね。私たちも自分の愛する人の中で滅んでいくのを見殺しにすることはできません。何とかしてその人が救われるように、神様の愛をいただいて伝道するのです。

さらに伝道はしてもしなくてもどちらでもいいことでなくて、イエス様からすべてのクリスチャンへの命令でもあるのです。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい」（マタイ 28:19～20）。伝道は、牧師や宣教師だけがする特別なことではありません。イエス様は、私たち一人一人にも伝道するようにお命じになったのです。

教会はイエス様が命じられたこの「大宣教命令」を、二千年以上にわたって忠実に実行してきました。それであなたにも福音が届いたのです。今度はあなたがこの福音を伝える番です。

3. 伝道の力はどこから？

とはいうものの、こんなにクリスチャンが少ない日本でイエス様のことを伝えるには、勇気がいるかもしれないですね。でもあなたの力でする必要はありません。使徒の働き1章8節に「しかし、聖霊が

あなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」という約束があります。私たちは聖霊の力をいただいて、イエス様のことを伝えていくことができます。

4. どうやって伝道するの？

(1) 一番大切なことは、あなたが救われた喜びのうちに生きています(詩篇95:1、ルカ1:47)

簡単なことではないかもしれないけど、あなたがどんな試練や状況の中になっても、そこに神様の恵みを見出して感謝できる人であったり、いつも神様にある平安をもって生きていく人であるなら、それだけで素晴らしい伝道になるでしょう。

(2) クリスマンであることを自然に知ってもらいましょう

あなたがどんなに素晴らしい生き方をしても、クリスマンであることを他の人が知っていなければ、神様のことは伝わりません。自然な形で周りの人にクリスマンであることを知ってもらえるようにしましょう。たとえば、自己紹介で話したり、普段の会話の中で「日曜日は礼拝に出席しています」と話したり、十字架のアクセサリーをつけたり、食事の前に短い感謝のお祈りをしたりするなど、いろいろ工夫してみてください。

(3) 救われてほしい家族や友人のため、部活やクラスのメンバーのために祈りましょう(使徒16:31)

最終的に信仰は神様がくださるものです。ですから、自分が神様の愛を伝えたいと思う人を神様が救ってくださるように祈りましょう。そして、神様がその人の心を開いてくださり、福音を伝えたり、教会に誘うよい機会が与えられるように祈りましょう。

(4) 信頼関係を築きましょう

人は、自分が信頼している人の話はよく聞いてくれます。あなたが信頼される人になればなるほど、話を聞いてもらえるようになります。そのためには、人の話を心から聴く人になりましょう。そして相談にのりましょう。自分自身を愛するようにその人を愛しましょう。信頼関係ができれば、あなたの話を聞いてくれるし、あなたの生き方に興味を持ってくれます。

(5) いつでも神様のことを伝えられるように用意をしておきましょう

あなたが友達からいろんな話を聞いたり、相談を受けた時、聖書に基づいた適切なアドバイスができるように、普段から準備をしておきましょう。たとえば、このテキストをよく読むだけでもかなりよい準備になるでしょう。また、自分の救いの証をいつでもできるようにしておきましょう。「あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい」(Iペテロ3:15)。

(6) 柔軟に、しかし筋を通して

パウロは「すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。」(Iコリント9:22)と言っています。あなたも聖書的生き方の筋を通して、相手に一番合った方法

で神様のことを伝えましょう。音楽が好きな人には、クリスチャンミュージックを通して。文章を読むのが好きな人にはトラクトやキリスト教文学を通して。携帯やパソコンをよく使う人には、携帯やパソコンで見たり、聞いたりできるクリスチャンサイトを紹介するのもよいでしょう。もちろん、いろいろな機会に中高生の集まり、クリスマスやイースター、賛美集会などに誘うのもいいことですよ。

まとめ

イエス様が命をかけて私たちを愛して、救ってくださいました。この愛があなたの所まで届いたのは、あなたを愛してあなたに福音を伝えてくれた人がいるからです。あなたも同じように、愛する家族や友達に福音を伝えましょう。

☆聖句

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。」(マタイ 28:19)



かんが 考えてみよう

1. 伝道とはどういうことで、なぜするのでしょうか？

2. あなたが神様の愛を伝えたい、イエス様の救いを伝えたいと思う人を書き出してみましょう。

3. その人たちの名前をあげて、その人たちのうちに聖霊が働かれて救いに導かれるようにお祈りしましょう。



Lesson12 さんび 賛美



あなたはどんな賛美が好きですか？讃美歌、聖歌ですか？ワーシップソング、ゴスペルですか？オルガンをを使った賛美ですか？ギターやドラムを使っている賛美ですか？今回は、賛美についていっしょに考えてみましょう。



1. 賛美について聖書が教えていること

(1) 私たちは神様にむかって賛美するように造られている

「主をほめたたえよ。すべて造られたものたちよ。主の治められるすべての所で。わがたましいよ。主をほめたたえよ」(詩篇103:22)。

「主は、私の口に、新しい歌、われらの神への賛美を授けられた。多くの者は見、そして恐れ、主に信頼しよう」(詩篇40:3)。

これらのみことばから、神様は、私たちが神様を賛美するように定めておられることがわかります。ですから、賛美はしてもしなくても、どちらでもよいものではありません。私たちは賛美と生き方すべてを持って、神様をほめたたえるために造られているのです。

また、「われらの神への賛美を授けられた」とあります。一般の音楽は自己満足のためにすることも多いですが、賛美はそうではありません。演奏者のすばらしさをたたえるためでもありません。賛美はただ神様をたたえるものです。

(2) 賛美はささげもの (いけにえ)

「ですから、私たちがキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか」(ヘブル 13:15)。

私たちは、主をほめたたえる賛美のいけにえ、すなわち「御名をたたえるくちびるの果実」を神様にささげることができます。礼拝のプログラムの中で、賛美は付録ではありません。神様への大切なささげものです。あなたの、そして教会がそろってささげる賛美は、メッセージと共に礼拝の中心なのです。

(3) 賛美は神様との交わりを深める

「全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。私たちが主のもの、主の民、その牧場の羊である。感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ」(詩篇100:1-4)。

賛美は祈りの言葉にメロディーがついたもので、神様と交わりを深める目的があります。賛美は神様

と私たちを結ぶ架け橋とも言えます。祈れば祈るほど、賛美すればするほど、神様との交わりは深くなり、聖霊が私たちの心を支配してくださるのです。賛美の恵みははかりしれません。私たちは神様を賛美すること、聖書を読むこと、祈ることによって、神様との深い交わりを持つことができます。ここに本当に神様がいらっしゃると感じることができるのです（詩篇22:3）。

2. 賛美にも歴史がある

「ダビデとイスラエルの全家は歌を歌い、立琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らし、主の前で、力の限り喜び踊った」（Ⅱサムエル6:5）。

旧約時代、賛美は歌や楽器を用いてなされました。当時のあらゆる楽器が用いられました。旧約聖書には、笛の類、琴の類、タンバリン、シンバルなど22種類の楽器がでています。

中世ヨーロッパでは賛美も高度の芸術性が求められ、一部の専門家である聖歌隊がラテン語で賛美して、会衆は聞くだけでした。16世紀の宗教改革でプロテスタント教会は、礼拝で再びみんなでいっしょに賛美（会衆賛美）するようになりました。

その後の教会の歴史をみると、一度にたくさんの方が救われるリバイバルが何度か起こりました。その時には、いつも新しい賛美が生まれました。

3. 賛美に形式はある？

聖書の中では、当時のすべての楽器を用いて神様を賛美していることがわかります。この楽器は神様の賛美に適していて、この楽器は適していないという記事は聖書中にもありません。もともとすべての音楽、すべての楽器は神様を賛美するために存在します。賛美は形式の問題ではありません。どんな形であれ、神様に喜びを表すことが賛美の原点です。自分の感性や伝統と違うだけで賛美の質を決めることはできません。大切なのは、楽器を用いる人の心です。どんな楽器でも主を賛美し、主を礼拝するために用いることができるのです。

世界の教会では、実にさまざまな賛美がささげられています。高い天井の会堂でささげられる伝統的で厳格な賛美、屋外で踊りとともにささげられる賛美、数人の礼拝の賛美、何千人もの礼拝の賛美があります。伴奏もパイプオルガン、ピアノ、ギター、ドラム、バイオリン、民族楽器などが使われています。このように賛美に「絶対にこうでなくてはならない」という形はありません。

4. 賛美をささげる心

賛美は普通の音楽や歌とは違います。賛美はただ聞くものでもありませんし、人に聞かせるものでもありません。だれかの賛美を聞く場合でも、賛美をささげる人と同じように神様を賛美する心をもつことが大切です。

「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」（コロサイ 3:16）

賛美は、神様のはかりしれない大きな愛を知った者が、心を尽くしてその愛にこたえたいという心
あらわれです。ですから、神様の愛のすばらしさを知った人であるなら、誰でも神様をほめたたえるこ
とができます。

まとめ

賛美は、神様の愛に感謝して神様をほめたたえ、ささげるものです。賛美は何よりも私たちの信仰の
あらわれ、私たちの生き方そのものです。私たちは生きていくかぎり、神様を賛美しましょう。

☆聖句

「ハレルヤ。私のたましいよ。主をほめたたえよ。私は生きていくかぎり、主をほめたたえよう。
いのちのあるかぎり、私の神に、ほめ歌を歌おう。」(詩篇146:1~2)



かんが 考えてみよう

1. 賛美で大切なことは何でしょうか？

2. あなたがさらにすばらしい賛美の生活ができるためには、何をしたらよいでしょうか？

3. あなたの教会の礼拝賛美のために、あなたは何かができますか？